

県立総合衛生学院を卒業してから4年目の私

高林千彰
看護学科 39 回生

平成 20 年度に卒業し、富山県高志リハビリテーションに就職し早いもので4年が経過しました。就職当時は学院で学んだ知識や技術を、看護の現場でどう活かしていけば良いかわからず、看護技術のスキルばかりでなく患者さんとの関わりがとても難しいと感じていました。

今まで出会った患者さん個々に合ったケアや指導方法に悩み、職場の先輩から多くのアドバイスをいただき、日々励まされながら過ごしていました。今も患者さんと接する時には、学生時代に実習で受け持ちをさせていただいた患者さんやご家族の方々を思い出しています。今はどうしておられるだろうかと懐かしくも思い出されます。

学生時代を共に過ごし、実習や国家試験の勉強を励ましながら行っていた友達とは、社会人となってからも、時々集まってお互いの近況を伝える機会をもっています。

私が今の病院に就職するきっかけとなったのは、病院実習でした。初めて訪れた実習先で見た光景は、急性期病院とは異なる雰囲気があり、一人ひとりの患者さんとゆったり関わっておられ、患者さんが社会復帰するための方法を懸命に模索され、医師・看護師のみならず、療法士の皆さんや医療ソーシャルワーカーと情報を共有しながら話し合われている姿に、魅力を感じました。当時の私は、片麻痺の患者さんを受け持たせてもらい、患者さんと共に歩行訓練や、更衣訓練を繰り返し行なっていました。また、ご家族の方とも関わることができ、受け持ち看護師の家族に対する指導や思いを傾聴する姿勢を間近で見ることができ、患者さんと共に成長できたと感じることができました。大変、楽しく実習できたのです。

就職して4年目の現在では、病棟での役割も変化し、責任のある仕事が増えています。後輩も増え、ますますプレッシャーを感じながら仕事をしています。今後も辛いことや悩んでしまうこともあると思いますが、まず、初心にかえり、県立総合衛生学院の学生時代に得た知識や経験を活かし、看護師として成長を続けていきたいと思っています。